

東京 2025 デフリンピックキャラバン隊活動報告

1 応援イベント

事業実施日時	2025 年 6 月 29 日(日)10:00~12:00、13:00~15:00
イベント 主催団体	一般社団法人 全日本ろうあ連盟(実施主体:鹿児島県聴覚障害者協会)
イベント名称 [開催場所]	東京2025デフリンピック応援イベント in かごしま [イオンモール鹿児島 光の広場]
内 容	鹿児島市にあるイオンモール鹿児島光の広場にて開催された、東京2025デフリンピック応援イベント in かごしまを実施しました。 内定選手トークショー、ブース設置、手話体験コーナーによる PR が実現いたしました。 〈ブース実施内容〉 ・手話言語体験コーナー(体験者数:約30人) ・デフリンピック説明チラシとデフリンピックパンフレット配布(約300部配布) ・デフリンピック説明用バナースタンドと競技説明用バナースタンドの展示 ・デフリンピックメダルレプリカ展示 ・漫画パネルコーナー
イベント全体の来場者	約 300 名

2 キャラバンカー巡回

巡 回 日:2025 年6月29日(日)~2025 年7月4日(金), 11日(金)

実施主体:鹿児島県聴覚障害者協会

稼働距離:1193 キロ(沖縄県内移動も含む)

日程	稼働予定	巡回先情報
6月28日(土)	○ 夕方	夕方、宮崎県協会が来鹿して引継ぎ
6月29日(日)	○	イオンモール鹿児島でイベント開催
6月30日(月)	○	聾学校(12:30~14:30) ハートピアかごしま(15:00~16:30)
7月1日(火)	○	県知事表敬訪問(9:30~11:30) 指宿市・枕崎市・南さつま市・南九州市(午後)
7月2日(水)	○	霧島市・姶良市(午前) 鹿児島市(15:00~16:45)
7月3日(木)	○	日置市・いちき串木野市(午前) 薩摩川内市(14:00~15:30)
7月4日(金)	○	垂水市 沖縄へのフェリーに乗る(18:00鹿児島港発)
7月11日(金)	○	沖縄から受け取り熊本へ引き継ぎ

(参考) イベント写真

1 東京2025デフリンピック応援イベント in かごしま（6月29日）の様子



2 キャラバン隊 知事表敬（7月1日）の様子



3 キャラバンカー 県庁舎展示（7月1日）の様子



4 キャラバンカー県内巡回（7月1日～7月4日）の様子



東京2025デフリンピック



きこえない・きこえにくいアスリートたちの世界大会

開催日程
2025

11.15 (土)
～ 26 (水)

デフリンピックとは

デフリンピックとは、4年に1度開催される、きこえない・きこえにくいアスリートのための国際スポーツ大会です。日本初開催となる2025年は、**100周年**の節目となる大会です。

大会概要

大会名称

第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025
(略称) 東京2025デフリンピック

参加国

70～80か国・地域

選手数

約3,000人

競技数

21競技

競技会場

東京都内会場（東京体育館、駒沢オリンピック公園総合運動場ほか）、福島県、静岡県

大会ビジョン

デフスポーツの
魅力や価値を伝え
人々や社会とつなぐ

世界に、
そして未来に
つながる大会へ

“誰もが個性を活かし
力を発揮できる”
共生社会の実現

大会エンブレム

人々の繋がりを意味する「輪」をテーマに、デフコミュニティの代表的なシンボルである「手」を表している。デフリンピックを通して「輪」が繋がった先には、新たな未来の花が咲いていくことを表現。



デフリンピックの特徴

- 競技中は補聴器などを外して、全員が公平にきこえない立場となって競技を実施します。
- 「耳」がきこえなくても「目」で見て分かる工夫(視覚的保障)がされています。
- 世界各国から集まる参加者が国際手話をはじめとした様々な方法でコミュニケーションを展開しています。

▷ 視覚的保障



スタートの合図がわかるようにランプが点滅



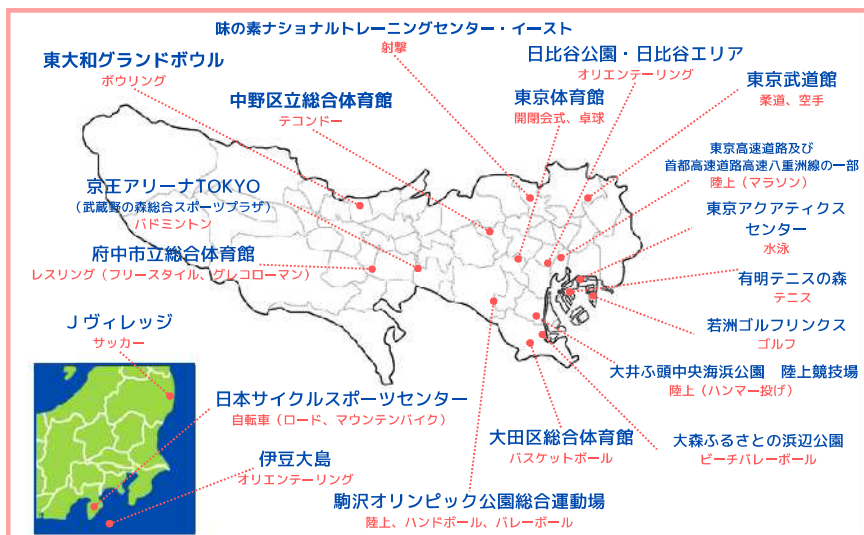
審判の合図の声をランプの点滅で知らせます

▷ 「デフリンピック」の手話言語表現



両手2指で輪をつくり、輪を向かい合わせるようにして交互に2回つける

競技会場



デフリンピックスクエア

デフリンピックスクエアを国立オリンピック記念青少年総合センターに設置



- ・大会運営本部、輸送のハブ、メディアセンター、練習会場等の機能をもつ大会運営拠点
- ・新技術を活用したユニバーサルコミュニケーションや交流、芸術文化の体験等、選手や来場者向けの様々なサービスを展開

▷「デフリンピックスクエア」の手話言語表現

社会福祉法人全国手話研修センター
手話言語研究所 新しい手話の動画サイト
東京2025デフリンピック関連用語



デフリンピックを通してめざすもの

「シンプルで心に残る大会」をめざすとともに、全ての人が輝くインクルーシブな街・東京の実現に貢献

みんながつながる

東京2020大会で使用された様々なデジタル技術も活用し、「誰もが円滑につながる大会」を実現。「誰もが大会を楽しめる技術」の開発や、デフリンピックスクエアで技術の展示・PRを行う。



世界の人々が 出会う

選手や関係者などを、おもてなしの心で迎え、芸術文化や食、観光資源など、東京の持つ魅力を感じてもらい、世界との絆を深める。



こどもたちが 夢をみる

都内や被災地の子どもたちの競技観戦、選手入場時のエスコートキッズなどの機会を設け、デフスポーツの魅力を感じてもらうとともに、またとない経験を届ける。



未来へつなぐ

デフスポーツやろう者の文化への理解促進、環境への配慮などに取組むことで、「未来につながる大会」を実現。



みんなで作る

デフアスリートなどとともに大会計画を検討。多様な人々がボランティアとして活躍できる機会を設けるなど、多くの都民・国民の理解と参画のもと、大会を創り上げる。



みんなで大会を盛り上げる

大会の意義を都民・国民に発信するとともに、大会の開催気運を盛り上げていくための様々な取組を展開

大会の意義や魅力を伝える

応援アンバサダーなどを通じ、大会の意義や魅力を伝える。大会エンブレムを用いた広報PRツールの活用、デフアスリートと子供たちとの交流や競技体験など、大会への関心を高める取組を幅広く展開。

＜東京2025デフリンピック応援アンバサダー＞



長濱ねるさん 川俣郁美さん KIKI 朝原宣治さん

共生社会について考える

ろう者の文化を身近に感じてもらうよう、デフアスリートの活躍やろう者の社会活動を紹介。手話単語を簡単に学べる動画やデフリンピックなどをテーマとしたハンドブックを制作し、様々な機会に活用・発信。



サポートの輪を広げる

競技団体、区市町村、当事者団体などと連携した取組の展開や、寄附・クラウドファンディングなど、より多くの人々が参画し、大会を創っていくための仕組みづくりを進める。



【大会について詳しくはこちら】

●東京2025デフリンピック大会特設サイト



URL : <https://deaflympics2025-games.jp>

●SNS (デフリンピック運営委員会)



X @2025deaflympics



Instagram @deaflympics2025